

モーツアルトの「ピアノソナタ15番」1楽章、爽やかで軽快な進行。無機質な陥穽に嵌りがち、その懸念を払拭、正統的で真摯なスタンス。カッシリとした堅実さ、彩り潤いをオン。作曲家に対する畏敬の念の表れ、敬虔なアプローチ。その一方、ウィーン情緒の香り真っ只中、楽しい雰囲気やウキウキたる心の躍動が伝わってきそう。この作曲家のピアノ曲のうち、よく知られた作品。軽妙なメロディー、心地よい気分で何気なくハミング鼻歌、好き勝手に意識し口ずさむコト多し。案外、演奏会プログラムのエアポケット、ライブで聴くのは多くない、フェイバリットと銘打った中の1曲か、ピアノソナタ全集としての録音が主要な音源。軽やかなモーツアルト・トーンか、グルダさんの変幻自在、いつもそんな印象に捉われる。ギッシリ詰まった充実感、聴き手の心に確り浸透、すぐ手が届く近くでの演奏効果。そう1年半前ここで全曲を聴いていた、それを忘れるくらいの強烈なインパクト。

モーツアルトの「トルコ行進曲(ピアノソナタ11番3楽章)」、演奏家のピアノで聴くのは久しぶり。ケレンミなきオーソドックスな取組み、さらりと流すが如く軽やかな展開ではない。堅実な音のフクラミを活かす、ピアニストのオリジナル感覚、隋所にこだわりの工夫が際立つ。よく知られたアンコールピース的な作品、テクニック冴えの顕示、テンションの高揚、その逆に、エキサイティングの沈静化、そのトレンドは皆無。最後のクライマックス近く、装飾のきらびやかさ一閃、目を瞠る。以前、その近くで感心した素敵さとは別の輝き。(2014.6.26)

クライスラー：愛の悲しみ

クライスラー：愛の喜び

クライスラー：美しきロスマリン

モーツアルト：ピアノソナタ 15番 ハ長調 K.545 1楽章

モーツアルト：トルコ行進曲(ピアノソナタ 11番 イ長調 K.331 第3楽章)

(アンコール)

クライスラー：中国の太鼓

【ヴァイオリン】藤田千穂